

令和 7 年 3 月

令和 6 年度 学校（園）評価及び関係者評価報告書

栗島幼稚園

園長 矢田泰久

1 学校（園）評価

学校（園）評価は、幼稚園が設定した目標の実現に向けて取り組んできたことについて自己評価し、保護者や地域の方にも評価いただきながら、次年度以降の改善につなげていく取り組みです。

栗島幼稚園においても、より良い教育・保育活動を行うために、教育目標、教育・保育の取り組みや園運営についての学校（園）評価を実施し、更なる教育・保育水準の向上や園運営の改善を図るよう努めています。

2 学校（園）評価の目的

各学校（園）が、自らの教育活動その他の学校（園）運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校（園）として組織的・継続的な改善を図ること。

各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表説明により、適切に説明・責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校（園）・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

各学校（園）の設置者等が、学校（園）評価の結果に応じて、学校（園）に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

（文部科学省 幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕より）

3 栗島幼稚園

(1)経営方針

園児の人権を尊重し、防犯・防災・防疫などへの安全・安心を担保するとともに、預かり保育など保護者の子育て支援を基盤として、今求められている幼児教育を推進する。

具体的な実践目標に「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性といった非認知能力の開発」を含んだ 7 つの教育目標を掲げ、また、小学校との円滑な接続に向けた「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を方向目標として、今日的な教育・保育の実践に取り組んでいく。

(2)教育保育の重点

子どもの発達状況や多様な教育的ニーズを踏まえ、3 歳児においては 20 人以下の少人数の学級編制を行うとともに、4 歳児・5 歳児においてもできるだけ少人数の学級規模を目指す。

保育実践においては日々子どもの自発的な遊びを尊重するとともに、個と集団保育の場面から社会情動的スキルなどの習得を目指す。また、園独自の特色ある正課活動（体操、水泳、自転車、音楽、英語、習字）を推進する。とりわけ、現在体力低下が課題となっていることから、広い園舎・園庭を生かし一日 60 分を目途に運動する機会の確保に努める。

他方、保護者の子育て支援として、午前保育や短縮保育を減らし、保育時間を確保するとともに、行事を土曜日に移したり、休業日保育の回数を増やしたりして、預かり保育の年間日数を増やす。また、2 歳児保育を本年秋に実施する。

(3)教育目標

幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎を培う大切な時期である。幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、幼児期にふさわしい生活を展開することにより、心身共に健康で心豊かな幼児、自ら考えて行動する主体性と協同性を育んだ幼児、明るく伸び伸びと自己を発揮する幼児の育成を目指して、次の目標を掲げる。

- 1) 元気がある
- 2) 自分のことは自分でする
- 3) 仲良く遊ぶ
- 4) ものごとに興味・関心をもつ
- 5) 思ったことを話し、人の話を聞く
- 6) 体験や考えに感動する
- 7) （創意）工夫して表現する

4 学校（園）の自己評価及び保護者評価のアンケート項目について

(1)教育目標に基づく、お子さんの成長・発達について

- 設問 1 元気がある。
- 設問 2 自分のことは自分です。
- 設問 3 友だちとよく遊ぶ。
- 設問 4 ものごとに興味や関心をもつ。
- 設問 5 自分から思ったことを話し、人の話を聞く。
- 設問 6 体験や考えに感動する。
- 設問 7 いろいろなことに工夫をする。

(2)幼稚園の教育・保育、運営について

- 設問 8 遊びを中心に実体験を大切にした教育・保育活動に取り組んでいる。
- 設問 9 幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れている。
- 設問 10 一人ひとりの個性を大切にし、意欲や自信をもたせている。
- 設問 11 挨拶や身の回りの始末など、基本的な生活習慣を身に付けさせている。
- 設問 12 話したり聞いたりする意欲や態度を育てている。
- 設問 13 集団生活に必要な、きまりや約束の大切さを指導している。
- 設問 14 種まき・栽培などを通し自然に親しめる環境を整えている。
- 設問 15 正課（音楽・体操・英語・自転車・年長習字・年長スイミング）は幼児の育成に役立っている。
- 設問 16 園行事（園外保育・宿泊・運動会・おゆうぎ会・作品展示会等）全般に工夫がされている。
- 設問 17 避難訓練（火災・地震）や安全指導（交通・不審者）などで子どもに安全に対する意識や習慣が身に付くようにしている。
- 設問 18 園の教育方針や目標、子どもの様子が伝わっている。
- 設問 19 園の学級編制の規模は適正である。（年度始:年少・中組 1 学級 20 名以下、年長組 1 学級 30 名以下）
- 設問 20 学級懇談・個人懇談の内容は有意義である。
- 設問 21 預かり保育の日数や時間は十分である。
- 設問 22 預かり保育では子どものしたいこと、興味のあること等の整備がなされている。
- 設問 23 未就園児教室（あっぶる教室）の回数や内容は十分である。
- 設問 24 毎週金曜日及び月 1 回程度の園庭開放の回数や内容は十分である。
- 設問 25 園の情報を「園だより」や「学年だより」「ホームページ」「Instagram」等を通して、わかりやすく伝えている。
- 設問 26 教職員の対応（職務の資質・能力）は十分である。

5 達成及び取り組み状況について（指標）

- A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない
- D まったくあてはまらない E よくわからない

(1)学校（園）の自己評価アンケート集計結果

※同上添付資料「令和 6 年度栗島幼稚園【教員】自己評価アンケート集計結果」参照

(2)学校（園）の保護者評価アンケート集計結果

※同上添付資料「令和 6 年度栗島幼稚園 保護者園アンケート集計結果」参照

6 園評価委員会報告

(1)内部委員 田所由貴子理事長、矢田泰久園長、川口哲矢総務主任

(2)外部委員 土井真奈美前母の会会長、田上真子母の会会長

(3)開 催 日 令和 7 年 2 月 13 日（木）午後 2 時

(4)内 容 「令和 6 年度保護者の園評価アンケート」及び「同教員の自己評価アンケート」の集計結果報告、並びに外部委員からの講評

(5)委員意見

設問 15 正課（音楽・体操・英語・自転車・年長習字・年長スイミング）は幼児の育成に役立っている。

田上委員：ピアノカ、書道、スイミングなど 100%の完璧さや正確さを求めているわけではなく、経験をさせてくれることで「やったことがある！」「これ知っている！」と子どもたちの自信へつながります。小学校へ上がった時の物事への向き合い方が全然違うと感じます。各家庭によって求めるものは違うと思いますが、栗島幼稚園は勉強や遊びのバランスが取れていて、心も体ものびのび育つ素敵な園だと感じます。

設問 21 預かり保育の日数や時間は十分である。

土井委員：社会構造の大幅な変化が見込まれない今後 10 年程度は、前の 10 年と同じようなペースで利用比率が増えることが予想されます。そうであるならば、今後 10 年間程度は、人員配置を計画的に増強していてもよいのではないかと思いました。

設問 25 園の情報を「園だより」や「学年だより」「ホームページ」「Instagram」等を通して、わかりやすく伝えている。

土井委員：決まったクラスの投稿ばかりになっている等、毎年同じような意見が出ているので、本質的な解決に至っていないのかと思いました。

(6)講 評

土井委員:栗島幼稚園は地域に欠かせない存在です。更なる発展を楽しみにしています。

田上委員：栗島幼稚園は、保護者の求めるものが違う中、一つ一つの保護者の意見に真剣に向き合ってくださいの素敵な園です。